

## 第56回車座集会（麻生区） 摘録

- 1 開催日時 令和5年3月5日（日） 午前10時00分から正午まで
- 2 場 所 麻生区役所ロビー
- 3 参加者等 41名（参加者13名、関係者・傍聴者28名）

### <開会>

司会：皆さん、おはようございます。

ただいまから第56回車座集会を始めさせていただきます。

本日の司会を務めさせていただきます、麻生区役所副区長の岡田と申します。よろしくお願いいたします。

麻生区におきましては、昨年度から、「新百合ヶ丘駅周辺の公園等を有効活用した協働のまちづくり」をテーマに、地域住民の方々や団体の皆様と地域デザイン会議を3回開催してまいりました。

本日の車座集会は、これまでの地域デザイン会議における話し合い、活動実践の成果を踏まえるとともに、麻生中学校の公民の授業で取り組んできた麻生区の地域課題の解決をテーマにした学習成果を基に、さらに議論を深め、今後のまちづくりに生かしていくことを目的にしています。

本日、これまで地域デザイン会議に参加していただいた方や、麻生中学校の生徒さん3名に出席をしていただいています。まず、本日の参加の皆様を紹介いたします。

万福寺町内会会長 斉藤満さん

山口台自治会会長 渡辺孝一さん

新百合山手公園管理運営協議会事務局 小松崎憲さん

新ゆりアートパーク管理運営協議会会長 武藤泰さん

麻生プレーパークを創る会代表 飯野優子さん

寺子屋あさお・寺子屋くりぎだいコーディネーター 上田和雄さん

里山フォーラム in 麻生事務局長 石井よし子さん

麻生区PTA協議会会長 須賀光栄さん

新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム事務局 岩倉宏司さん

アジア航測株式会社取締役会長 小川紀一郎さん

麻生中学校3年生 宮崎結衣さん

同じく 伊丹禅さん

同じく 平林拓磨さん

司会：続きまして、行政側の出席者を紹介いたします。

福田紀彦川崎市長でございます。

三瓶清美麻生区長でございます。

司会：それでは、開会に当たりまして、福田市長からご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

### <市長挨拶>

市長：改めまして、おはようございます。

車座集会も56回を数えるに至りました。様々なテーマでこれまで行ってききましたけれども、最近、中学生や高校生といった若い皆さんも参加していただける機会が多くなってきて、本当に議論に非

常に膨らみが出てきております。

そして、大人たちが、あ、それは気づかなかったなというような視点が出されることが、議論にすごく深みと気づきを与えてくれております。今日もそれをすごく大いに期待したいと思います。

先ほど副区長から話があったように、地域デザイン会議でこの議論をずっと進めてきたという意味では、私が一番このテーマに加わっていないんじゃないかという気がいたしますけれども、改めて新百合ヶ丘の周辺の地図を見させていただくと、こんなに豊かな公園があるんだと。駅周辺はこんなに公園があったかと、改めて地図を見てみますと感じますけれども、やはり線路のこちら側、南側となりますと、区画整理事業が行われたのが40年から50年近く前ということで、いろんな形で老朽化も進んでそれぞれに課題があると。

北側も新しいけれども、それぞれに課題があるということなので、課題を出し合いながら、いろんな形で重ね合わせることで、魅力や活用が進む、そういうきっかけに今日はなればいいと思っております。

2時間とちょっと長くなりますけれども、皆さんのお付き合いをお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

司会：福田市長、ありがとうございました。

#### <これまでの経緯と本日の内容>

司会：それでは、これまでの経緯と本日の内容につきまして、ご説明をいたします。

麻生区役所企画課、佐藤から説明をいたします。

事務局：麻生区役所企画課の佐藤と申します。

それでは、スクリーンを用いて、これまでの経緯についてご説明させていただきます。

新百合ヶ丘駅周辺には10か所を超える公園、緑地、街路樹が回廊をなして、四季を感じる花々や紅葉など、様々な緑を身近に感じることができます。これらは土地区画整理事業により、それぞれ特色ある公園、緑地が整備されていますが、各公園、緑地は点在しており、古いものでは供用から30年以上経過しています。

それでは、主な公園についてご紹介いたします。

初めに、①万福寺おやしる公園は、世田谷町田線に面しており、斜面に設置された花壇は電車から見ることができ、新百合ヶ丘駅の玄関口として多くの人から喜ばれております。また、サクラの広場ではお花見等を楽しむことができます。

次の②万福寺さとやま公園は、地域の原風景をモチーフに、新百合山手地区内の新しい里山として整備された公園です。園内には子供たちが思い切り遊べるプレーパークも設置されております。

次の③万福寺ふるさと緑地は、アートセンターの裏側に位置している緑地で、梅雨時期には通路の脇にアジサイが咲き誇るあじさいロードがスポットになっています。

次の④上麻生隠れ谷公園は、麻生小学校とマンションに囲まれた、まるで中庭のような公園となっております。公園中央にはボール遊びが可能な広場があり、ボール遊びを楽しむ子供たちの元気な声が響く公園となっております。

次の⑤山口白山公園は、麻生スポーツセンター南に隣接しており、遊具のある広場、比較的大きい広場や、散策できる樹林地を有しております。

次の⑥鶴亀松公園は、広場には大型の複合遊具が設置されており、近所の子供たちの遊び場や、隣接する幼稚園に通っている親御さんたちの情報交換の場として親しまれている公園です。

次の⑦弘法松公園は、名前のとおり、弘法の松と呼ばれる黒松の大木がありました。また、展望台が

設置されており、晴天の日には丹沢や富士山、南アルプスまで一望できる公園です。

次の⑧新百合ゆりアートパークスは、昭和音楽大学の隣にある緑のじゅうたんのような芝生が生い茂る公園です。芝生ではヨガをしたり、昼寝をしたり、とてもリラックスできる場所となっております。

次の⑨こやのさ緑道は、新百合ヶ丘駅の東側に位置している緑道で、長さは約500メートルです。昔の雑木林があった頃の風景を垣間見ることができる緑道となっております。

最後に、⑩万福寺檜山公園は、雑木林が生い茂り、かつてはヒノキが植えられていましたが、周辺の開発により姿を消し、それを惜しんで檜山と名づけられたと言われていました。

麻生区の地域デザイン会議では、こうした新百合ヶ丘駅周辺に位置する公園等を有効活用した協働のまちづくりをテーマに意見交換などを重ねてまいりました。

初めに、令和4年3月27日に開催した第1回の地域デザイン会議では、早稲田大学の矢口先生から、国内外の事例を交え、参加を促す公共空間づくりについてお話をいただきました。参加を促す公共空間づくりに大事なルールとして、主役は人、住民であること。まちの大切な場所を理解しよう。必要なプログラムは画一的ではないこと。小さなことから始めてみよう。スケールの大きな場所でも住民の関与が必要であること。様々な人々にデザインをしてもらおう。奉仕し、奉仕される関係が必要などという7つのルールをご説明いただきました。

最後の奉仕し、奉仕される関係では、公園に実のなる果実を植えて、維持管理に携わった方が収穫体験をできるといった他都市の事例もご紹介いただいたところです。

こうした取組を進めるに当たって、まずはみんなで考えるより、行動して、実際にとにかくやってみて、やってみた中で改良を進めながらやってみるものの大切さや、みんなで公園に関わるには、楽しんで実施することが大切といった助言もいただいたところです。

次に、令和4年11月3日に開催した第2回の地域デザイン会議では、参加者の皆様を上麻生隠れ谷公園、万福寺おやしる公園、万福寺檜山公園をめぐる3つの班に分け、現地調査し、それぞれの公園ごとに利活用の方法についてワークショップを行いました。

こちらが現地調査、ワークショップの様子となっております。ワークショップは3つの班ごとに発表を行いました。それぞれの班から発表いただいた主な意見は、アート作品展示、竹ぼうきづくり、掃除、焼き芋、大鍋調理といった一連のイベント、火を使うイベントと清掃活動・防災等を組み合わせたイベント、生息している樹木の名札つけなどの意見が挙げられたところです。

このワークショップで出されたご意見の中から、実現できるものを試行的な取組として組み入れ、令和5年2月23日には、第3回地域デザイン会議を万福寺おやしる公園で開催いたしました。写真でお示しする樹木ネームプレート作りや、竹ぼうきづくりを行ったり、落書き板設置や、アート展示、飲食スペースの設置など、ワークショップでの提案を実践する内容としました。

なお、火気の使用についても検討を行ってまいりましたが、課題が多く、周辺の住環境に配慮して、慎重に検討が必要と判断し、今回は実施しませんでした。

また、イベントの後半には、参加者の皆様と意見交換を行うとともに、最後に、公園清掃を実施しました。意見交換の中では、子供たちが清掃活動に加わることができる仕組みがあればいい、全国都市緑化フェアを控えていることからこれまで以上に官民連携していくことが公園の利活用にも重要、どこに公園があるか知らない方が多いのでSNSやスタンプラリーで各公園を連携させてみては、といったご意見が出されました。

続きまして、麻生中学校の取組をご説明いたします。

麻生中学校では、公民の地方自治の授業で、麻生区の地域課題解決をテーマにしており、1月には麻生区長を招いて発表会が開催されました。その中で様々な地域課題解決に向けた提案をいただきましたが、公園の利活用に関する提案も多く、その実現に向け、車座集会での意見交換はよい経験になるとい

うことから、2月には学校近接の3つの公園を現地調査し、提案を取りまとめていただきました。

こちらが1月の発表会の様子の写真となっております。

本日の車座集会の進め方ですが、この後、今ご紹介させていただきました、麻生中学校の生徒から取りまとめたいただいた提案を発表していただきます。

その発表を踏まえ、ご参加いただきました皆様の地域活動の経験などを交え、皆様と意見交換を行い、本日のまとめを行ってまいりたいと考えております。私からの説明は以上でございます。

司会：それでは、この後、麻生中学校の生徒さんから提案をいただく形になります。

その後、皆様全体で、どうしたらこの中学校の提案が実現できるか、さらに、どうしたら公園の維持管理・利活用に多くの人を巻き込んでいけるかなど、皆さんと一緒に意見交換をしていきたいと思っております。

司会：それでは、中学生の皆さん、大丈夫ですか。緊張していますか。市長もいたり、区長もいたり、ちょっと緊張していると。普段どおり、リラックスしてやっていただければと思いますので、よろしく願います。

#### <中学生からの提案発表>

宮崎さん：それでは、発表を始めます。

私たちは社会の公民の授業で様々なパフォーマンス課題に取り組んできました。その中で衆議院の投票率の推移から、若者の投票率が低いという問題に注目して学習してきました。その中で、スライドの資料からだけだと、若者の投票率が低いという現状と、高齢者の投票率の高さが目立ちます。最初は、年齢が上がるごとに投票に行くようになっていこうと考えていました。しかし、投票率が高いとされる60代の人たちが20代だった40年前の投票率が約60%です。40年間で10%しか上昇していないということも読み取れます。つまり、投票率が33%である今の20代の40年後は40%を超える程度の投票率で、40年後は有権者の半分以上が投票に行かない状況で政治が行われることになってしまうのではないかとこのように考えました。

この現状を変えていくために、学年1人1人が若者の投票率を高めるためのCMづくりを行いました。この活動を通して、取りあえず投票に行こうということではなく、何のために投票に行くのかを考え、訴えることができました。

こうした活動があつて、地方自治の授業では、麻生区の現状を捉え、麻生区にこれからも住み続けたいと思えるように、麻生区役所企画課が実際に募集していた市民提案型事業を考えることになりました。

麻生区の現状は、自然豊かで農作物が多い。医療機関が多い。保育園の待機児童も最も少ない。川崎市の中で一番公園数が多い。川崎市長選挙や衆議院選挙の投票率が高いということなど、人口が増えている中、8割以上の方が生活環境に満足していることが分かりました。

一方、自治会加入率が市内で一番少ない。人口が増えているのに、出生率が減少して、高齢化率が高くなっている。高齢者の独り暮らしが多い。児童待機数が増加しているなど、地域のつながりが少なくなっているという課題も見えました。

伊丹さん：こうした課題と向きあうために、1人1人が市民提案型の事業を考えてきました。

その授業の中には、地域学習発表会、ほかの地域と比べて、区長との意見交流会、公園めぐりでごみ拾いラリー、次のスライドに、こういう感じの、海外のごみ捨てのところにあって、たばこの吸い殻を、このごみ箱のテーマだと、どちらの選手がサッカーが一番うまいかというもので、ロナウドかメッシで、好きなほうにたばこの吸い殻を投票するみたいなことをできればいいなというもので、クイズ型のごみ

箱の設置や地産地消のキッチンカー、吹奏楽部と昭和音楽大学の音楽祭、高齢者と若者の座談会や、名産物の芸術祭、地域のSNSの活性化、麻生区のバスデザインなど、たくさんの意見が出てきました。多くのアイデアを考えることができ、実際に麻生区の三瓶区長にも参加いただきました。

そして、今後の卒業期の活動として、新百合ヶ丘駅周辺の鶴亀松公園と、山口白山公園、上麻生隠れ谷公園を訪れ、各公園の現状と利活用について考えることができました。

山口白山公園については、自然が豊かな点と、中央の広場がとても大きいので、ボール遊びに適していること。でも、デメリットとして、街灯が少ないことで、夜間は少し危険があること。あとは、高い木があることで、ボール遊びをしたときに、木の上のほうにボールなどが乗ってしまうなどがありました。

宮崎さん：公園の利用方法について考えたところ、虫取り大会など、みんなで交流できるものや、ワークショップを開く、森を利用して鬼ごっこ、運動会をしたり、小中学生がごみ拾いに参加する。イベント開催でイースターやお祭りを開くことで、理由としては、環境整備をし、様々な世代の人にとって利用しやすいようにするために、たくさんの世代が関われる機会を増やしていけたらいいのではないかと思います。

平林さん：次は、鶴亀松公園について発表します。鶴亀松公園の特徴としては、遊具がほかの公園と比べると充実しているということが挙げられます。また、ボール遊びをするぐらいの広さもあるので、ボール遊びもできます。また、近くに青葉幼稚園や、ほかの保育園や幼稚園があるということで、小さい子が楽しめるという場所でもあります。

また、近くにベンチなどがあって、私が実際に鶴亀松公園に行ったときは、大人の人が読書などをしているため、大人の人も楽しめるということで、幅広い年代が楽しめる公園ということが鶴亀松公園には言えます。

ただ、課題としては、小さい子が遊ぶに当たって、大きい木の枝が落ちていて、目に刺さったり当たったら危ないということが挙げられます。また、どの公園にも言えると思うんですけど、トイレが汚いというのもあります。

そんな鶴亀松公園の利用法については、ごみが少し落ちていたので、投票ごみ箱ということで、さっき発表にもあったと思うんですけど、テーマを出して、2択だったり、選択肢を設けて投票をするという形で、ごみ箱を設置することで、ポイ捨てのごみを減らすということだけでなく、楽しくごみを捨てられるということで、人ももしかしたら集まるかもしれません。

また、テーマによっては小さい人や、幅広い年代の人に意見を求めることもできると思います。また、バスケットやサッカーゴール、砂場の設置ということで、近くの公園でバスケットのゴールやサッカーゴールがないので、どこかにそのようなものがあってもいいのではないかと考えてみました。また、小さい子が来るので、砂場もあつたらいいのではないかと思います。

次に、隠れ谷公園についてお話しします。隠れ谷公園も遊具が少し充実しています。中にグラウンドがあるということで、ボール遊びもできて、フェンスが周りに囲まれてあるので、ボールが遠くに飛ばなかったりして、小さい子にも優しいつくりとなっています。

課題としては、またこれもごみが落ちていたりするということが挙げられます。隠れ谷公園も世代を問わずに楽しめる公園という長所ということもあります。

利用方法については、移動販売の車を1週間に1回ほど呼ぶということで、過去にそのようなものがあったので、特に小さい子がおやつとして食べたり、ちょっとおなかが空いたなというときに食べられればより人が集まると思います。

そして、公園ライブを月1回実施するというので、近くに麻生小学校や保育園があることもあって、中学生などの関わりも増やしたいということで、公園ライブがあれば、年齢を超えた交流をすることができると思います。

以上で公園の利活用の発表については終わります。

私は、この授業をする前は、私たち中学生では麻生区を盛り上げたり、活気をつけることはできないと考えていました。しかし、今回の授業を通して、私たち中学生でもできることがあり、また、中学生の視点でしか分からないこと、私たちにしかできないということもあるので、私たちは、今後、麻生区を活気つけるために俯瞰的に見て、日常を過ごしていければいいなと思います。

ご清聴ありがとうございました。

司会：皆さん、ありがとうございました。堂々たる発表でした。

麻生中学校の提案は、4クラスで6チーム、計24の提案がございまして、本日、会場の後ろにそれぞれ24の提案が貼ってあります。3年生が調査をした発表ですが、これを2年生、1年生が評価軸に従って、シール投票で評価するという取組をやってくれています。本日はその24の提案の中から4つが選ばれてご発表いただいたということになります。後ほど休憩のときにも、ほかの24の提案をご覧いただければと思います。これは第3回の地域デザイン会議でも展示をし、皆さんからも評価をいただきました。それでは、ここから皆さんの間で意見交換を進めていきたいと思います。

福田市長、よろしく願いいたします。

#### <意見交換>

市長：改めまして、よろしく願いいたします。

麻生中学の皆さん、本当にありがとうございました。

びっくりしましたね。すごくたくさん提案をしていただいた中で、特に公園に最後のところは注目してもらって、3つの公園について課題があること、こうしたらいいのではないかと具体的な提案をいただきました。

何よりうれしかったのが、やっぱり中学生だからこそ気づく視点があるし、自分たちでしかできないこともあると授業を通じて分かったということを書いてくれたのが本当にうれしく思いますし、皆さん、すごく頼もしく聞かれたのではないかと考えています。

共通して3つの公園の話が出てきましたけれども、キーワードとすれば、ごみが多いという話が、指摘がされたのと、それから、希望とすれば、多世代でということがそれぞれあったと思います。いろいろな世代の人たちに使われ、交わっていくということが大事だという視点があったと思います。面白いですね、中学生は中学生だけで遊びたいのかなと思いきや、やはり多世代で混じり合いたい、遊ぶというふうなことがやりたいといったところに、すごく面白い視点がありました。

今のご提案を受けて、今日の車座集会は、この中学生の意見がどうやったら実現できるか、という話をまとめていくことが今回のテーマになっているということですので、そういった視点に立って、それぞれコメントをいただければと思うんですけど、どうでしょう。

PTA会長の須賀さん。頼もしく聞いていただいたというふうに思うんですけども、感想も含めていかがでしょうか。

須賀さん：本当に皆さんの意見を聞いて、ちょっと涙ながらに聞いていたんですけど、私は、7年前に片平小学校のPTA会長を始めたんですね。そのときに、始まってすぐに、5月の地域教育会議というのがありまして、そこで6年生の代表委員の方のご意見と、自治会の方とお話をする中で、やっぱり公園の

ことが議題になりまして、隣接している片平公園がうっそうとしていて、ちょっとどうにかしたいと。

6年生の子が、できれば僕たちがやりたいと言ってくれたので、僕は公園の管理運営協議会のこともやっていたので、おじいさんは植木屋なので、すごくそういうのが好きなんです。これはもうぜひ実現したいということで、その年の11月には地域清掃日というのを学校で組んでくれまして、地域の自治会の方、周辺にあるかないばら苑とか、障害者施設の方も、本当に地域ぐるみですばらしい企画にさせていただいて、当日は片平小学校は650人位いたんですけれども、それは一生懸命やってくれまして、見る見るきれいになっていきました。

それで、終わった後は、楽しかったとか、もっとやりたいと言ってきて、本当に胸がいっぱいになりました、本当に。それで、7年続けまして、途中コロナ禍もありまして、ちょっと難しい時期もあったんですけれども、やっぱり7年の間に3人校長が代わったんですけれども、ちゃんと毎年組んでくれまして、今年は地域を広げまして、ほかの葉積緑地とかにも行くようになりまして、それで、今年、また違った形で新しいアクションを起こしたいと今思っております。

市長：ありがとうございます。

すばらしいですね。7年間それを続けてきたと。

須賀さん：感動しちゃったんですよ。

市長：すごくすてきなのは、子供たちがその清掃活動をやりたいという話だったんですか。

須賀さん：はい。もっとやりたいと言って、年に1回だけなんですけど、もう毎月やりたいとか、それは学校のプログラムがぎっちり詰まっているので、先生方も難しいということなんですけど、それでもやっぱり、その後、市内統一美化活動というのが川崎市でありますので、そういうのをご紹介して、自治会の方とかの紹介で、各地域の近くの公園を清掃するというのが、片平小学校のみんなには伝わっているかと思ひまして、それで実際に公園を見ていますと、やっぱり子供たちはもうごみは捨てなくなりましたね。実際に落ちているのは、缶ビールの缶とたばこの吸い殻になっちゃうんですね、悲しいことに。そういう実情です。

市長：ありがとうございます。

実は私は、ここの麻生区役所に来る間にも、山口台自治会の方が、道路の脇のごみを拾っていただいていた。胸にブルーのものを、ピステというのでしょうか。ああいうものを着て、拾っておられました。

それぞれの自治会だとか、地域の方って、こういう清掃活動に管理運営協議会の皆さんもやっていたいていると思うんですけれども、なかなか課題があると思うんですよ。その辺りの実情というものを少しお話いただけるとありがたいのですが。

渡辺さんからよろしいですか。皆様からちょっとずつご発言していただいでよろしいでしょうか。

渡辺さん：山口台自治会の会長をしています渡辺と申します。

発表してくれた麻生中学校の生徒さんと、自治会の中にある中学校で、ふだんからつながりを持つと思っております。すごいですよね。今の中学生とか、あるいは小学生も立派に自分たちの意見を反映させるということに本当に感銘しました。ありがとうございます。

今、市長からお話があったとおり、本日、3月5日、クリーンデーと称しまして、山口台の自治会に

ゼッケンをつけて、月1回見回ってごみを拾いましょうよと。道路を我々がやって、役員がやったり、周りの人がやったり、自分の家の周りは皆さん、やってくださいねというような、クリーンデーのセッティングになっております。全体としては山口台のところは、先ほどお話があったとおり公園が3つありまして、ご指摘のとおりごみの問題があります。

全体的に言えば、そこの中の鶴亀松公園の緑地保全活動と称しまして、年に2回、緑地協会の方のご支援の下に、樹木の剪定とかをやらせていただいております。

2つの公園は真福寺公園、山口台公園、その2つは公園管理運営協議会がございますので、定期的に清掃をやっている。そういう状況なんですけど、ポイントはやっぱり生徒さんたちに、どうやってアピールするかというところが問題かというのはお聞きして思いました。

我々はポスターを貼ったり、回覧をしたりなんかはするんだけど、中学校へのアクションは起こしているかと言われると、校長先生と教頭先生が、年に2回あるうちの、出てきてくれてやっているんだけど、そういった意味で、生徒さんたちへのアクションが少ないと思いますので、これからどうやってアクションを起こしていくかというふうなことも考えております。

市長：ちなみに今、公園の清掃活動というのはどのぐらいの頻度でやられているんですか。

渡辺さん：公園は月1回、日曜日に公園管理運営協議会がやっておりまして、先ほど申したとおり、我々は月1回理事会がある日に、会員さん共々、道路のところを清掃するという感じですね。

あとは、鶴亀松公園なんかは2回やるのは大体5、60人が集まってくれてやりますし、あとは、緑道クリーンデーというのがまた別にあって、年に1回、2回やるんですけどね。700メートルある緑道の中を清掃するというようなイベントです。

市長：本当に日頃からありがとうございます。

自治会の皆さん、役員の皆さんをはじめ、そういう方たちが担っていただいて、清掃活動をやっているということですね。

渡辺さん：そうですね。ご指摘があった、生徒さんたちの案は、実際に可能な部分って随分あると思うんですね。

私は、これから自治会のほうに持ち帰って、こういう発表を中学校の生徒さんがしてくれたよといって、じゃあ、自治会が動けるのは何とって、対行政との問題もあると思うんですけども、それもまた中学校さんへフィードバックする関係で、やっぱり地域と中学校さんのつながりが今求められておりますので、これから会話をちょっと増やしていきたいと思っています。

市長：ありがとうございます。

斉藤さん：万福寺町内会の斉藤と申します。麻生中学校の皆さん、ありがとうございます。

冒頭に、若者の投票率が20代は33%だということで、ただし、麻生区全体の例えば市長選とか参議院選を見ると、川崎市7区の中で常に麻生区がトップなんです。非常に民意が高いというふうに、私の町内会の役員会などでは、とにかく投票に行ってもらいたいという話を毎回続けているんですけども、期日前投票がありますよ、区役所でやっていますから、どうぞ投票日に都合が合わなくても行ってくださいという話を常にしているんですけども、逆に、市側としては、もっと駅周辺で気軽に投票ができる場所を、もっと法律の枠を超えて、ぜひ増やしていただきたい。もっと上がるはず。若い人

がもっと投票できるはずです。

ちょっと余談になりましたけれども、私どもの町内会は、毎月1回、35名とか40名で役員会をやっているのですが、その終わった後に道路清掃と安全パトロールというものを全員でやっております、もちろん出られない方もいるんですけれども、それで、街路樹等の木の間にあるペットボトルですとか、吸い殻ですとか、お菓子の空き袋ですとか、そういうものをできるだけ拾って、ごみと呼ばないような形の取組をしております、さらには市内の統一美化活動を9月最終の日曜日に、必ずその日は天気になってほしいと願っているんですけれども、400名ぐらいで、全地域を美化活動で、その日は草取りもやっております。そういう形で、地域全体がきれいになるような取組をしております。

さらには、私どもとは別の組織なんです、公園管理運営協議会さんのほうで、毎月公園の維持管理をされて、後ほど小松崎さんのほうからお話があると思うんですけれども、そういう形の活動をしていただいていることで、私どものおやしろ公園という、駅、ここの区役所からも5、6分のところにあるんですけれども、その公園の利用が非常に進んでおまして、防災訓練ですとか、盆踊り大会ですとか、夏にはラジオ体操とか、子供たちを集めてのイベントもかなり多くやっております、利用に関しては一切課題がないんですけれども、若干トイレの問題があるんですね。

それで、今日写真をお持ちしましたので、ぜひ見ていただきたいと思っているんですが、これがおやしろ公園のトイレですけれども、実は公園の前、広場で遊んでいる人も、トイレが直接見られるというような、プライバシーのカバーがないんですね。それで、維持管理していただいている委託の業者さんに言わせると、風が吹いたりすると、落ち葉もこの中に入ってきちゃうということで、これは16年前にこの公園が造られたんですけれども、もう少し考え方を改めて、トイレの維持管理がしやすいような構造にさせていただいたらありがたいなというので、じゃあ、どんなものが望ましいのかと、その写真も持ってきました。

これは、多分ハイキングの方のトイレの利用をしやすいようにということで、こういう場所が造られていると思うんですけれども、ちゃんと前に、こういう休憩場所のブラインドがつくられているんですね。こういうような造りにしていただくと、さらに公園のトイレが、自分たちでもこれは管理して使うものだという意識が逆に高まってくるんじゃないかと思うんです。

もう1つ、これが山口台の鶴亀松公園にあるトイレです。今から35年ぐらい前に造られたんですけれども、もう少し壁さえ明るくして、ソーラーパネルか何かをこの辺に設置して、LEDか何かをつければ、もっと中学生の皆さんから提案があったように、明るいトイレになると思うんですね。そんなことを日々考えて、町内会の運営に当たっておりますので、よろしくお願ひします。

市長：ありがとうございます。それでは、小松崎さん、お願いします。

小松崎さん：私は、新百合山手公園協議会の事務局をやっております。

スクリーンを見ていただきますと、新百合ヶ丘駅北側ですね、約20年前に区画整理事業が終わりまして、整備された公園が幾つもございまして、その中の特に3つの公園緑地を中心に日々活動をさせていただいている団体でございます。

当初は、100名以上の会員さんがいらっしゃったのですが、徐々に減っていつてしましまして、今、実際に活動に参加していただけるのは大体50名ぐらいかなと。その中でも特にコアなメンバーとしまして、20名ぐらいの方が日々汗をかいて活動していただいております、活動としましては、年に3回会員の皆様全員にお声がけをして、春、夏、秋と3回、おやしろ公園、さとやま公園、ふるさと緑地と、大きな3つの公園緑地がありますので、それぞれを中心に清掃活動、除草活動をするということをメインにやらせていただいております。

それ以外に、やっぱりそれだけではどうしても足りませんので、日々活動をしていくわけですが、2022年度は、延べで50回以上の美化活動をやっております、平均しますと週に1回ぐらいは活動をやっております。その中には、三瓶区長にも参加していただいて、除草活動とかやらせていただきました。

その中で、今日中学生の皆さんからの意見の中で、キーワードが幾つかあったと思うんですが、特にごみ拾い、ごみの問題に関しましては、やはり我々の協議会でもごみ拾いを日々やっているわけなんですけれども、これは大人のマナーが悪いと思うんですけれども、先ほどから出ています、たばこの吸い殻、ビールの空き缶、ファストフードの袋、こういったものが大体同じ場所に捨てられているということが非常に多いんですね。同じ方が、そういったところで、飲食などをして、ごみを捨てていってしまうということがあると思いますので、これは道路公園センターさんや警察さんなどにもお話をしておりますけれども、見回りみたいなものもどうしても必要かと感じていますし、そういったものの注意喚起もやっていかなきゃいけないと思います。

それと、12月の末に、おやしる公園でボヤ事件がありまして、そういった意味でも、大人のマナーを注意喚起する施策というものを行政と一緒にやっていけたらと思っております。

そんな中、日々、道路公園センターさんとは連携をさせていただいております、先ほどの美化活動などを通じて、一緒にやらせていただいておりますので、そうはいつてもなかなか新百合山手は広い公園でございます、なかなか手が行き届かないことが多い中で、我々も無理を言って、道路公園センターさんにいろいろなことをやってくださいとお願いをしておりますけれども、なかなか厳しいとは思いますが、予算のほうも、市長にぜひ緑に関する予算をつけていただきたいと思っております。

あと、中学生さんからの提案の中で、小中学生さんと大人の方が一緒に交わってという話もあったと思うんですが、過去に麻生中学校の生徒さんが新百合山手のほうに来ていただいて、美化活動を一緒にやってくれたという、過去にそんなこともございましたので、この件についてはぜひ実現したいと思っておりますので、新年度にそういったことができるように、ぜひ麻生中学校の先生方に実際に伺って、ご相談をして、新年度はぜひ公園協議会のメンバーと一緒に新百合山手の中で美化活動をしていただくことを企画させていただきたいと思っておりますので、中学校の方、よろしくお願ひしたいと思ひます。

市長：ありがとうございます。

しかし、本当に延べ50回やっていただいたということで、すごい活動量ですけれども、メンバーの方というのは、どういう方たちが加わっていただいておりますか。

小松崎さん：やはり新百合山手といいますか、あそこは万福寺という住居表示、住宅地になりますけれども、万福寺にお住まいの方がほとんどです。ただ、やっぱり60歳以上の方がほとんどなものですから、なかなか集まるのが難しい。そんな中で、やはり楽しんでやっていかなきゃいけないというのもテーマとしてありますので、作業をした後にお茶を飲むとか、あと、コミュニティの場というのも非常に大事だと思っておりますので、そういったことを心がけてやっておりますけれども、なかなか人が集まらないというのがありますので、これは今日、万福寺町内会の斉藤会長もいらっしゃるので、新百合山手地区、万福寺地区全体で公園協議会と町内会が手をタッグして、美化活動に努めていきたいと思っておりますし、今日のテーマであります利活用ということが本当に大事だと思っておりますので、新百合ヶ丘駅周辺の公園に、皆さんもっと人が集まっていただくような施策をしていただきたいと思いますと思っておりますけれども、やっぱり利活用の前に、危なくない公園を造らなきゃいけないと思っておりますので、道路公園センターさんにも、ナラ枯れが大変今多くなってきておりますので、その処分をお願いしておりますけれども、なかなかこれも手が行き届かないところもあると思ひます。

こういった面もぜひ川崎市さんに考えていただきまして、安心、安全な公園を造ることがまちづくりに寄与しますので、ぜひそういった面で、お力添えをいただけたらと思っていますので、よろしく願いいたします。

市長：ありがとうございます。 それでは、武藤さん、よろしいですか。

武藤さん：アートパークスの武藤です。

私どもは、バス通りからご覧になっても、非常にきれいな青い、今は枯れていますけれども、これからきれいな緑が映える公園になっていまして、いつか、あそこでどういうふうな管理しているかなと思いつきながらおったんですけれども、今実際に、私は公園をやっています、先ほどの中学校の皆さんのご意見なども入れながら、さらにきれいな公園にしていきたいと思っています。

私どものモットーは、裸足で遊べる公園、芝生を、それだけ管理しないと、なかなかそういうことはできません。最近、裸足になる機会が子供たちはほとんどありませんので、嫌がるんですけれども、だけど実際にやらせてみますと、面白かったという声も出ますので、素足健康法というのもありますし、そういう一環でも、今後も注意していきたいと思っています。

それで、私どもの活動は、ちょっとほかとは違うかもしれませんが、まずメンバーが、地元の方は1人しかいらっしゃらないのです。大体、今、常時出てこられるのが12、3名。これは毎週やっています。土曜日、9時半から1時間半ほど。毎週、あそこの草取りをやっています。芝生の中の草取り、それから周辺の灌木の中の草取り、それから、街路樹もやっているものですから、その信用金庫のところから、ずっと広い道路、信号のところまで、あそこの道の両端も、樹木の下のところ、あそこをいろいろと管理していますけれども、10数名でやりますと、なかなか手が回らない、やはり人が足りないと思います。これをどうするかというのが、年々高齢化していますので、これをどうするかというのは、ぜひひとつ、中学校の皆さんの力も入れて、きれいにしていきたい。

実はこの間、南百合丘小学校の社会の授業で、公園を訪ねて来てくれました。2年生でしたね、100名ほど。授業の一環で、いろいろと質問を受けまして、その後、子供たちに実際に草取りをやらせてみたんです。それと、先ほど言いました裸足になって遊んでごらんとやらせてみたら、草取りをやった子供たちが、なかなか草の見分けはつかないですね。それと取り方は、別に何でもいいので、私どもは、マイナスイオンで取ってやっているんですけれども、そんなことをやらせてみたら、結構面白がってやっていました。それから、裸足の子は足が汚れますけれども、あそこは水道もありますので、洗って、気持ちよく遊んでくれました。終わってから数日たったら、手紙が来ました。ぜひ今後、草取りを協力したい。ぜひお願いしますという返事を私は出しておきました。その後は、ちょっとまだ具体化していませんけれども、そういう活動もやっております。

それから、公園自体としては、この地区は保育園が結構あるものですから、保育園さんの自分の庭みたいにして、あそこで遊んでいます。それから、運動会の練習、あるいは運動会をあそこでやるとか、そういうことをやっています。

それから、一般の皆さんのご利用も受け付けていまして、これはどういうふうに行っているかというところ、交流館やまゆりというのがあります、そこのメンバーになっているものですから、使用予定者の申込みを受けて、許可をして、それで青空ヨガ、芝生の上でヨガをやる。それから、裸足の健康法とか。これは、リーダーの方はアメリカの方なんですけれども、あちこちで、そういう健康法をやっている。そういう方が来て、実際に裸足になってウォーキングをやる、あるいは会話をするというふうなこと。

それから、星空を見る会というのを最近やり始めまして、麻生地区の夜空を見て、星の観測をしたいという、そういう催しをやっています、こういうものに、ぜひ皆さんの参加をいただければと思って

います。

市長：ありがとうございます。

渡辺さんから始まって、4人の方にお話を伺いましたけれども、中学生への期待というものもありますと同時に、武藤さんからご発言いただいたように、中学生だけじゃなくて、もっと若い子供たちもやりたいと言ってくれるという、幅広い可能性があるなということをご示唆いただいたと思っています。

そういう意味では、子供たちにすごく関わっていただいている上田さん、飯野さん、石井さんにそれぞれ順番でお話を伺いたいですけれども、活用していただくということと、いろいろな若い世代を巻き込んでいくという視点から、どんなことができるだろうかということをご発言いただけるとありがたいです。

上田さん：寺子屋のコーディネーターをしています。麻生小学校と栗木台小学校の2か所のコーディネーターをしています。

今、いろいろとお話しいただいている公園をどう使うかは、すごく大事ななと思っています。寺子屋を始めて数年ですけど、地元の自治会の人たちとどう連携するかとか、保護者の人とか、近辺の人とも連携をどうするかというのを考えたときに、公園ってすぐ目につくことなんですね。すごく変な言い方をすると、不公平感があるのが、不公平感って変な意味じゃないですけど、栗木台小学校の校区って、すごく公園が多いんですよ。ミニパーク、ポケットパークも含めると、麻生小の倍以上はあるんですね。だから、そういうたくさんあるのをどう使おうとか、それだけたくさんあるのって、例えば栗木台小学校の校区に住んでいる人たちが、本当にみんな知っているのかなど。

寺子屋をやらせていただいていますので、いろんな中学生の方たちの公園の使い方とかを聞いていますけど、校区の中の公園の四季はこんなですよというのを寺子屋のホームページに、画像で見てもらえるような仕組みにして、寺子屋の先生たちと共同しながら投稿していく。そういう小さなことですけど、公園を知ってもらおう。知ってもらおうと、大人が公園を見てくれる。子供たちが遊んでいるのを見てくれて、言ってみれば、安全面でも、ここってこんなふうには遊んでいるし、割といいよねとか。私もですけど、ご老人たちがひなたぼっこをするのもたまにあるので、子供に対しても見てくれるというのでは、うまく地域の中で連携して、子供たちを育ててもらえるような環境ができればいいのかなというので進めています。

市長：ありがとうございます。

なるほど、知られていないんじゃないかという、知るコンテンツを提供していただいているという話でした。

実は僕も先日、南百合丘小学校に関わった方からお手紙をいただいて、本を頂いたんです。それは、学校の校庭にどれだけ多くの木が生えているのかと。最初に南百合丘小学校ができたときって、多分、数本しか木がなかったんですけど、いろいろなところから種が飛んできたり、またPTAの方が植えていただいたり、今は140種類にもなったということで、その木が何になるのかというふうな図鑑を作ったと。それに目をつけた大手の出版社が、ぜひ学校の木という本を作りましょうということで、本になったんですね。

ですから、今、上田さんがおっしゃっていただいたように、どこの公園に何が植えてあってとか、校庭にも、こんなに豊かな木があったんだということを知るということは、先ほど須賀さんのお話にあったように、1回ごみ拾いを体験すると、もう二度と自分は捨てないですよ、将来にわたって。こういうふうな形で、意識をつけていくというのは、とても大事なことかと、上田さんのお話を聞かせていただ

いて思いました。それでは、飯野さん、石井さんの順番でよろしいでしょうか。

飯野さん:私は万福寺さとやま公園の体験ひろばをずっと使わせていただいて、プレーパークをずっと活動、10年以上続けております。市民団体として、ゆめ基金などの助成金を取りながら活動しているんですけど、公園を利用する立場で、ずっと万福寺協議会さんとは、関わりながら活動しております。

今日は、中学生の皆さんのお話を聞いて、なるほどと思ったのが、ゾーニングするというか、例えばバスケットができる場所を作るとか、スケートボードパークを作るとか、川崎の駅前のほうにも、バスケットコートみたいなのができていますよね。そういうのを麻生区の中でも、この公園ではこんなことができる、この公園ではこんな遊びができる、ボール遊びだったらネットをきちんと張る。あと例えばプレーパーク的に、外の子供の居場所的なところで、ここにはスタッフがいて、例えば木工ができて、ちょっと大きな冒険的な遊びができるとか、そんなふうに。全部の公園で全部のことをやるのは、多分、小さいお子さんとか、中高生の求めることってそれぞれ違う。あとシニアの方が求めることは違ってくるので、ゾーニングするという視点をもう少し持って、何かしら協働できたらいいというふうに感じました。

市長:なるほど。ゾーニングの話は大事ですよ。

それから、今、目的別みたいな話の公園、公園の特徴みたいなのを考えて、ネットワークみたいなことを考えていくというのも大事かと思えます。

今、利用のことについて伺えたんですけども、管理というか、使っているということで、例えば清掃活動とかにつなげていくというふうなことについて、何かコメントありますか。

飯野さん:私たちは月2回の活動なんですけど、活動の中で、ちょっと清掃活動をして、ごみを拾おうとか、この公園に、何がこの時期あるみたいなものをちょっと葉っぱ探しとか、長い葉っぱがないとか、シノザサが結構あつたりするので、そこを刈り取ってみようとか、そんなのを遊びに絡めながらみんなでやってみようという形で、意識を向けるような提案はしています。

市長:ありがとうございます。大事ですよ。楽しみながら清掃するとか、少しその要素がないとなかなか難しいという、いいヒントをいただきました。ありがとうございます。

石井さん:里山フォーラムの石井と申します。

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、ご存じでない方もいらっしゃると思いますので、里山フォーラムとは、麻生区の魅力であります里地里山、農地や樹林地の環境と文化を次世代に継承しようということで始まりました。麻生区の地域課題対応事業として位置づけられております。当初から、小学校との関わりを重視しまして、発表もしていただいております。

こちらの新百合ヶ丘の回廊のような緑地は、随分前から会がありまして、いろいろな方々と話し合いを重ねてまいりましたが、ようやく一步踏み出せるかなという印象を持っております。

何といたっても、この新百合ヶ丘の回廊の公園緑地がやっぱり多摩丘陵のまち麻生という、その多摩丘陵の自然の魅力をうまく管理、あるいはうまく自然を育てば、十分に味わえるすてきな場所になるだろうと期待しております。

先ほど、小学生が足元の学びをしたということは、とても素晴らしいことだと思っています。小学校高学年から中学生になりますと、どうしても視点が国内とか、国外とか、いろいろと世界に広がっていく段階の中で、総合学習とかで、足元の学びから体験学習をしていくということは、非常に大切なこと

だと思っています。本当にありがとうございます。

すばらしい提案をしていらっしゃるの、これを何とか実現できればいいなと。そのために、私どもの積み重ねてきたものを活用していただければいいと思っています。

先ほど市長さんがおっしゃったように、すばらしい先人たちもいらっしゃるわけで、すてきな学校の木で遊ぼうという、麻生区で子供が遊べる公園を考える会というのがございまして、その当時から一緒に活動してきた仲間なんですけれども、子供がテーマ出しをすることによって、多分野で多世代が何のわだかまりもなく、とても純粋な気持ちで集うことができ、提案することができますので、とてもよかったですと思っていますので、ぜひ、今回も多世代で多様な分野の方々が集まって、子供たちがせっかく提案してきたことを何とか生かしてあげたい、あるいは一緒にやりたいと思います。

公園緑地を作るときは、いろいろな方たちが集まって、ワークショップをして、どうしたらいいかということ必ずやるんですけれども、そこに子供が入っていなかったというのがあって、これからはぜひ小学生、中学生、高校生、大学生を入れたワークショップをして、公園緑地の在り方、あるいは将来像を考えていけるワークショップをしていただければいいと思っています。

と申しますのは、やっぱりまちづくりというのは、10年、20年の単位というよりも、もう50年、100年の単位で考えていかなきゃいけない課題だと思いますので、ぜひそういう多世代を巻き込んだワークショップをして、いろいろな方針を決めていっていただきたいと思っています。

市長：ありがとうございました。多世代でということは、とても大事だと、やはり持続可能な形にしていくためには、やはり多世代が考えて、利用して、そして管理運営もしていくという形が大事だと思いました。

小川さん：今日は中学生の皆さん、ありがとうございました。

私は、アジア航測という会社で会長をしています小川と申します。ちょっと皆さんとは立場が違うんでしょうかね。企業のこういった会への参加という立場で、少しお話をさせていただきたいと思っています。

企業の中の社員が、日頃、皆さんがやっていらっしゃるような清掃活動とか、除草活動とか、そういったことをやらせていただきました。特に新百合山手の小松崎さんの方々と一緒に、おやしる公園、さとやま公園、私たちはふるさと公園を結構やらせていただいたんですけれど、年3回清掃と特に除草ですね、草取りが一番大変です。そこに毎回、社員が20名から40名ぐらい参加して、一汗かいて帰って行くと。そうすると、社員のメンバーも気持ちよく帰ってくるんですが、残念ながら、その社員のメンバーは、麻生区の住民ではなくて、別の市の人もいます。私も相模原市民ですので、申し訳ありません。だけど、子供たちも連れて来て、特に小学生を連れて来てやっています。

10年以上一生懸命やってきたわけですが、少し課題を整理してまいりました。

アジア航測のメンバーは、ここに社員として7、800名ぐらい勤めているのですが、毎回出てくる人間が固まってきちゃったんですね。やはり10年ぐらいやってくると、大勢の人間は、やっぱり入るんですが、だんだん同じようなメンバーになってしまった。そうすると、やっぱり楽しみながらやるというためのインセンティブが欲しくなるとしています。

それで、いつも三瓶区長に申し上げていますシイタケの話がまた出てくるんですけれども、ふるさと公園を除草したりしていますと、ああいった環境の中でシイタケもできるのかなとか、そんなところも考えながらやっているのですが、最近ちょっと悲しいのが、ナラ枯れですよ。ナラ枯れで、どうしても木を切らなくてはいけなくて、その木を今度は処分しなきゃいけない。今まで除草をやってきたんですけれども、除草ばかりだと飽きてしまって、じゃあ、少し木を切ろうとなりまして、私もチェーンソーの講習会に行きまして、しっかりと木を切る練習をしてまいりました。そうしますと社員のメンバー

が、また逆に4、50名が集まり始めまして、木を切りたいというふうになりましたので、今度は少し手を広げて、かわさき里山コラボ制度、これを活用させていただいて、新百合ヶ丘の南のほうにある丘陵、斜面にある木を間伐していく、そういった取組をこれからやっていこうと思っております。シイタケの原木も取れますし、森の中にいろいろな恵みがあるということで、楽しみにしています。

今日の中学生の発表の中で、虫取り大会というのがありました。レアな虫が、何をレアと言っているのかちょっとよく分からなかったんですけども、実はアジア航測の中には、虫の種類を知っている人、それから木の名前をよく知っている人、そういう人がいます。そういう人間が一緒になって、こういった取組をやっていきますと、もしかするとレアな虫が見つかるかもしれない。例えばカミキリムシひとつを取っても、非常に多くの種類があるそうです。多分この新百合ヶ丘周辺の森の中にも、1種類、2種類ではなく、10種類、20種類ぐらいカミキリムシだけでもいるのではないかなど。中にはカブトムシとか、クワガタの好きな人間は、自分で幼虫を飼っています。ですから、そういったところが実は新百合にはいっぱいありますということをぜひ中学生にも知っていただきたいし、そういったところに私たちの会社としてのチームのナレッジといいますか、知が活用できるといいと思っています。

市長：ありがとうございます。

新百合ヶ丘に所在していただいているすばらしい企業が、社員の方は、多くは市外からの方もいらっしゃるということですが、この地域の企業が、こういう関わり方をさせていただけるというのは、本当にありがたいですし、新たな視点というふうに、川崎の森林公園だけでも、市外の方も加わるという非常にいい形をやっていただいていると思います。

シイタケの話、さっき区長から聞いたんですけど、面白いですね。さっき矢口先生の話をちょっと聞きましたけど、何か実になる木を植えて、それを公園管理などをしていただいている人たちが帰るといふ、そういう話なわけですね。

小川さん：おやしる公園で、タケノコが採れるのですよね。それを目当てに、社員のお母さんと子供さんが、4月のイベントだけは大勢参加します。やはりタケノコを持って帰って、その日の晩にお食事ですね。ですから、そういう楽しみというのはすごくあると思います。ぜひ、お願いします。

市長：非常にきっかけになりますよね。そういう形で、実はアジア航測さんもそうですけれども、川崎信用金庫さんも麻生区内の緑地の保全活動に、積極的に参加していただいたり、こういう企業の関わり方というのも、すごく大事なかなと思います。ありがとうございます。

最後、岩倉さんが、エリマネ、この新百合周辺のところをやっていただいている、ネットワーク化していく、いろいろな人たちをつなぎ合わせる役割を日頃からやっていただいておりますけれども、今のお話も含めて、いろいろな方々からお話あったと思うんですけど、いかがでしょう。

岩倉さん：そうですね。ちょっと個人的な話ですけど、ちょうど私、そこに鶴亀松公園がありますけれども、松の字の辺りに、ちょうど実家がございまして、50年ぐらい前に引っ越してきて、まだ山口台も鶴亀松公園が公園になっていない頃ですから、その裏山を登って行って、ちょうどうちの裏山に当たりますので、山芋ですとか、そういうのをおやじと一緒に掘ったり、そういうまだ自然豊かな時代を暮らしていましたし、先ほど白山公園辺りは、ちょうど大学院で論文を書いている頃、息詰まると、出て行って白山公園を散歩して、大好きな公園だったというような部分で、1つ1つの公園に思い入れがあります。

新百合ヶ丘の中で、特に都市環境のところ、例えばイルミネーションの事業を今年で16年目にな

って、この前に終わったところですけども、新百合ヶ丘は、新しい街なんだけれども、自分たちの思い出に何か残るような、自分たちのふるさとだと思ってもらえるようなところをしたい、何かきっかけづくりをとということで、イルミネーションの事業が始まったり、また、そういう中でいい街だと言われながら、実は落書きがいっぱいあった時代があって、それもどうやって消したら、これも消していかなきゃいけないよねということで、皆さんがそういうふうに関わって、呼びかけたら、結構皆さんそう思っている方たちがいっぱいいて、集まってきてくださって、落書き自体ももう何年やっているのか分からない、もう20年ぐらいやっているんじゃないかと思えますけど、そんな形です。

それから、さっき隠れ谷公園がすごく日が射して、すごくきれいな公園ですよと中学生の方たちに評価してくださったんですけども、実はできてから時間がたって、もう鬱蒼とした木になってしまって、子供が遊べないぐらい怖い公園になっちゃっていた時期があるんですよ。

それで、公園がどうにかならないかという話をずっとして、1年ぐらい、みんなでこういう公園、それとあそこは遊べる場所がありますよね。遊べる場所、これは残したほうがいいのか、残さないほうがいいのかというのも、大分議論になって、そして今の形のプランを書いて、それを行政のほうで全部整備していただいて、非常に明るい公園で、子供たちが遊んでいるという都市型の団地の中にある公園できれいな形になったことをお話を聞きながら思い出しました。

そんなことで、長らくいろいろな取組がされてきたということです。

コンソーシアムでは、今、小川会長が言ってくださったような形で、この地域の中にいっぱい企業があって、企業がこの地域に対して、どうやって貢献できるのかということを経営の立場、それから企業だからこそできるようなことの中で、事業を進めているんですけども、例えば今、マルシェというのをやっています。新百合ヶ丘のペDESTリアンデッキでただ歩くだけの場所でありがちで、何かそこに本当はもうちょっとゆったり自分たちのまちとして楽しめる、それは公園にもつながると思うんですけど、自分たちの居場所としていられるといいよねということの中でマルシェが始まりました。

そうすると、マルシェを何回かやっていくうちに、実は昔から鳩の糞のことが気になっていたんだよねというようなことで、鳩の糞の清掃をということで、一時、コンソーシアムの中でチームが出来上がって、毎月1回清掃を始めたところ、行政の皆さんと何か一緒にできないかということで、今、クリーンアップ大作戦というのも年2回やって、小川会長のところからもいっぱい来ていただいていますし、例えばイオンさんだって40人ぐらい来ていただいたり、川信さんも来ていただいたり、本当にいろいろな企業の中で、今、ほかの方に声をかけなくても100人ぐらい集まってしまって、もちろん区長、副区長、皆さん一緒にやっていただいて、清掃から始まって、花壇の整備ということで、今年は40周年でしたから、40というお花を植えて、きれいな花壇が出来上がったりということの中で、企業の立場も含めて、そして皆さんの活動をどうやって支えていったらいいのかというのが、コンソーシアムの立場です。

そして今、いろいろな多くの方たちを巻き込むという話があったんですけども、先月、コンソーシアムで、オープンミーティングという、今地域でいろいろな話題を提供していただく中で、川崎新都心まちづくり財団のほうで、1つの研究結果が出て、コロナの中で、テレワークをする方が麻生区って非常に多かったということなのですね。全国平均で27%ぐらい。首都圏が一番多くて42%ぐらいなんですけど、ここは54%の方がテレワークを経験されていて、それも毎日から週に2、3回というような形だったのでですけども、何が言いたいかというと、今まで、このまちにいらっしやらないで、昼間、都心で勤めていた方たちが、昼間このまちにいるようになった方たちがいっぱいいると。そうすると、そういう方たちも、一緒に公園ですとか、まちですとか、一緒に新たな担い手として日々加わっていただけるチャンスが出てきたなというようなことを今感じているので、そういう方たちと一緒にいろいろなことができたらいと思っています。

市長：ありがとうございました。

今、一巡しましたので、ここで一旦、5、6分休憩を挟みたいと思うんですが、後半、今、皆さんが言っていたお話を基に、どうやって具体的にコラボができるかというところに話を持っていきたいと思いますので、少しブレイクしたいと思います。

(休憩)

司会：時間になりましたので、市長よろしくお願いいたします。

市長：冒頭、大人の皆さんからいろんなご意見が出たと思いますので、聞いていただいた中学生の感想というものを聞いてみたいと思います。

平林さん：今回、話を聞いて、まず思ったのが、今、私たちとか、若い年代が公園で楽しく遊べるのは、いろんな清掃活動などをいろいろな団体の人たちがやってくれたおかげということに、気がつくことができました。

私は、生徒会長をしていて、今は引退したんですけど、生徒会と地域の団体の方とかで関わることができたら、中学生が思うことや、団体の人たちが思うことが共有できて、清掃活動など、中学生がより関わることができると思いました。

自分が思ったのは、やはり清掃活動など、地域の団体の人たちは、高齢化とかもあって、あまり労働力が少ないというのもあるって、中学生が参加できれば、より麻生区の活気が出ると思いますし、市長さんも言っていたと思うんですけど、ごみ拾いをした人は、やはり今後はごみをポイ捨てしたりするという機会もなくなるので、将来的にも、そのような清掃活動に若い年代の人たちが行動していければ、今後もよくなると思いました。

(拍手)

市長：むちゃくちゃすてきなご発言をいただきました。平林さん、どうもありがとう。ちょっと涙がちょちょぎれるぐらい、すばらしいコメントでしたね。

まず、今、自分たちが公園で遊んでいるのが、地域の人たちがこうやって関わっていただいていることのおかげだということに気づくことができた。自分たちも関わっていくというふうな、ある意味宣言的な話をさせていただきました。本当にありがとうございます。

ぜひ、利活用、遊ぶ人、使う人というふうな方も、誰かが一方的に管理をしていく、清掃活動していくというのは、そういう形ではなかなか持続可能ではないと思うのですよね。ですから、使う人、利用する人たちも一緒になって、運営、管理をしていくという形が望ましい姿なのではないかと思います。

そのためには、やはり地域の方たちはもちろんのこと、学生とか、本当に若者の方、大学生とかもそうですし、あるいは企業の方たちというキーワードも出ましたけれども、そういう人たちとどういうふうに、具体的にうまくつながっていくことができるかといったところに、少し話をフォーカスしたいと思っています。

例えば、公園の管理運営協議会の皆さんというのは、これは地域によってそれぞれだと思いますけれども、自治会の役員さんと兼ねられているというふうなことって、新百合山手のところは、ちょっと違う形ですかね。小松崎さんのところだと、年齢が60歳アップと先ほどおっしゃってましたっけ。例えば、こういった管理運営協議会のミーティングに、中学生がメンバーとして入るというのは、想定でき

ますか。

小松崎さん：ぜひそういう機会をいただきたいと思いますし、先ほど労働力というお話もいただきましたけど、年配の方は草取りをしても、それを集めるのに非常にこれまた力が必要で、それを運搬する力もいるというようなことで、ぜひ中学生の皆さんと一緒にそういうことができると、本当に効率が高まると思いますし、そういったミーティングの機会も含めまして、ぜひ一緒にやらせていただけるといいと思います。

市長：ありがとうございます。中学校とか、学校のイメージというふうなのをどう擦り合わせていくかというのは、大事なことと思うんですけども、最初に須賀さんが、地域を巻き込んで、学校を巻き込んでやっていただいたということ、でも、学校は学校のプログラムがあるから、子供たちがもっとやりたいといっても、学校では受け止め切れないというお話がありましたよね。

ただ、平林さんとか、お三方も含めてなんですけれども、学校単位ということではなくて、平林さんとか、伊丹さんとか、宮崎さんという一個人という形、学校というよりも個人で関わるというふうなのは可能ですかね。どうですか、宮崎さん、平林さん、伊丹さん、少しコメント、それぞれいただいていいですか。自分のことだけじゃなくていいんですよ、何かこういうふうなのは可能なんじゃないかというイメージだけで結構ですので。

平林さん：私としても、やはり個人として参加できる、例えば清掃活動など、そのような機会があれば、参加したいと思いますし、そのほかの人たちも、やはり、例えばさっきのタケノコだったり、地域の特産品とかであれば、やはりほかの人たちとしても、参加しやすいのではないかと思います。

市長：ありがとうございます。楽しみも必要ということですね。伊丹さん、どうですか。

伊丹さん：僕も、個人単位とかだったら、全然参加できると思いますし、何なら今日の車座を実際に学校の代表がこうやって3人集まってここに来ているわけで、これもある意味個人の単位として参加できているので、参加は全然実現可能だとは思いますが、ただ、例えばですよ、ただ清掃するだけの会に、わざわざ自分たちが出向くことって、そんなあまり意味を感じないという人が多いと思うんですよ。

市長：そうだよね。

伊丹さん：ただ清掃しに行くだけだったら、あまり興味をひかれないというのが、中学生とかは多分多いと思うんですよ。だから、ある程度の何かリターン、それこそタケノコとか、地域の特産品がもらえるんだったら出ていい、みたいな感じになるんですけど。ただやれ、みたいな感じだったら、うーん、みたいな。

(拍手)

市長：そうだよね。

伊丹さん：そうになってしまいます。

市長：皆さんから結構拍手が湧いていました。みんな共感していると思います。ありがとうございます。宮崎さん、いかがですか。

宮崎さん：私も、町内会の企画で、例えばクリスマスパーティーとかに参加してくださいというのが来たときに、友達となら参加するというのはあるんですけど、個人的に絶対行くというのではないかなと思って、例えば周りの人が、友達が行くなら行くとか、そういうことが多いので、個人として参加するという意識はあまり若者は持っていない可能性があつて。

市長：なるほど。

宮崎さん：例えば、伊丹さんも言っていたとおり、ちょっと堅苦しいイメージが、掃除にしても、自分世代の人は少ないし、小さい子の面倒を見なくちゃいけないとか、そういうのがあつたりするから行かないというのも多かつたりするので、例えば堅苦しいイメージがちょっとなくなることがあつたらいいなとか思ったり、あと落ち葉拾いをしたときに、幼稚園で少しやっていたんですけど、例えば焼き芋をその場でやってみたり、そういうイベントとかもすごくあつたので、何かそういうごみ拾いをするんだけど、そのごみを活用して、何かできることがあればいいんじゃないかと思います。

市長：ありがとうございます。すばらしい意見をそれぞれにいただきました。

やっぱり清掃活動というふうな、公園を利用する中の一端ということですよ。そういう意味では、楽しい、先ほど中学生の皆さんからご提案いただいた、例えば虫取り大会をやりたいとか、多世代で遊びたいとかという話を、楽しくやる、その一環で一緒にやっていくというふうな話がいいと思いますよね。

中学生からの企画が出てきたんですけども、渡辺さん、ちょっとコメントをいただきたいんですけども、一緒に企画をして、一緒に楽しんで、そして一緒に清掃していくという話はどう思いますか。

渡辺さん：大いにウェルカムですね。例えば話が違っちゃうけど、夏祭りなんかをやったときに、麻生中学校の生徒さんが参画してもらって、プランニングしたときがあるんですよ。そういった過去を見ると、その生徒さんたちの喜びというか、そういうのを金子校長先生にお話を聞いた覚えがあるんですよ。

だから、そういうところは、どういうふうな、逆に我々が働きかけたらいいのかというのが、ちょっと問題なのかな。固くならないようにって、やっぱり考えちゃうじゃないですか、我々、年がいくと。そこもフランクなところで、いかに生徒さんたちに参加してくれるか、そういう投げかけての方法もあると思うんですけど。

市長：そうですね。中庭のイベントがこれからあるようですけども、ああいうところでお茶を飲みながら、中学生たちと楽しみながら、こんなことがやれるかなというふうなのを相談ベースから始めるのもありですよ。そうすると、楽しいこと、これからいろんなのを企画していこうとなれば、ちょっとなんかやってみようかなという気にもなってきますよね。

上田さん：寺子屋で先ほどお話をさせていただきましたけど、公園の四季を写真を撮りながら回っていると、やっぱりたばこって多いんですね。恥ずかしながら、ごみを拾う準備をしていなかったら、拾いづらい。つい先日も、老人福祉センターの隣の公園で、ちょっと準備していたら、やっぱりたばこの吸い殻がたくさん落ちている。自分のポケットにビニール袋とか何かがあれば、持って帰りやすい。もう少し広げ

ると、隣の老人福祉センターに公共の施設という位置づけで、そういうごみを捨てさせてくれると、拾いやすくなると感じたんですね。だから、100均でビニール袋を買って、ポケットに入れて散歩しようというのもありなのかなって思ったりしたもので、発言させていただきました。

市長：ありがとうございます。でも、確かに公共施設のところで、少し拾ったものを回収してというのは、これはありますよね。

上田さん：かえって捨てやすいですよ。

市長：ハードルを少し下げることができますよね。

上田さん：個人で拾うと、家に持って帰る。ポケットに入れていくのも、バッグに入れていくのも、何かちよつとつらくなるので、拾うのをやめようかなって、人間ですからなってしまうというので、いくと、何か傍にあれば、そこに捨てさせてもらえると便利かと思ったりしますけど。

市長：なるほど。いいアイデアをいただきました。ありがとうございます。

須賀さん：来年、緑化フェア、川崎100周年の。これは私がちょっと進めておまして、この間、麻生区の道路公園センターとお話をしまして、公園では花壇以外には、植栽はなかなか植えづらいですね。ちゃんと許可を取ってであれば植栽は可能ということで、清掃活動は一旦、片平公園ではかなりきれいになりましたので、実際の写真を撮ってきたんですけど、結構土が見えてしまっているところもあるので、今度は、来年度からは、子供たちにちゃんと植えてもらって、毎年続けていって、緑化フェアが一過性のものでなく、スタートラインであるということを皆さんに認識していただいて、毎年それも必ず少しずつ緑化が進んでいくということも写真に撮って、これをやっていきたいんですけども、それは片平公園の片平小学校でやりますと。白鳥中学校では、周りのがのり面になっておまして、白鳥中学校が開校したときには、地域の自治会の方にご協力いただいて、桜の苗木を植えていただいたというのがあるんですね。ソメイヨシノというのは寿命が50年位らしいので、ちょっと桜の木自体が弱っております。それで、やっぱりまた50周年ということで、またもう一度、緑というキーワードで、白鳥中学校の周りをこれからは50周年に向けてできればということも白鳥中学校では考えております。

それで、ぜひ市長にお願いなんですけれども、この緑化フェアというものを、PTAとしっかり組んでいただいて、川崎市のちゃんと後ろ盾で進めていただければ、私も強力な後ろ盾として、さあ、皆さん、一緒に、グリーンフォーオールってあるんですね、この緑化フェアのポスターに。これをぜひ、各小中学校に貼って、みんなで盛り上げていこうと。麻生区と言えば緑だ、緑と言えば麻生区だということを小学校のうちからやれば、すばらしい区になると、希望のシナリオしかないということで、ぜひ市長によりしくお願いいたします。

石井さん：すごくうれしい発言で、麻生区と言えば緑、あるいは麻生区と言えば多摩丘陵の里地里山があるというのをぜひ緑化フェアでも、この新百合ヶ丘界隈から始まって、早野があつたり、黒川があつたり、岡上があつたりするという、そういうことに広げていただければありがたいと思います。

戻りまして、今日は、公園緑地を今後どうするかということなので、その清掃活動にちょっと今特化していますけれども、やっぱり公共の場をどういうふうに作っていくかというのは、これはもう住民総がかりでやっていく時期に入っているんじゃないかと思えます。

ともすれば、公園を管理する人と利活用する人が分離、あるいはそこにすごく落差があるんですけども、そこをできるだけ距離を縮めていく努力を行政、あるいは講座とかいろんな、行政も総がかりで取り組んでいただければいいと思います。

あと、新百合ヶ丘界隈の特に東、あるいは南口のほうですけども、年数が経っておりますので、特に白山公園のほうの、せっかくの雑木林が残ったんですが、そこがとても危ない状況にあって、子供たちが入れるような状況ではございませんので、ぜひ白山公園並びにコヤノサ、あるいは万福寺檜山ですけども、そこはぜひ何とかいい自然に回復していくことが求められているのではないかと思います。そこにもお互いの力を協働で、行政との協働でできればいいと思っています。

市長：ありがとうございます。

さっき岩倉さんの話でもありましたけど、ものすごく巨木化して、安全じゃなくなったものも、行政と市民の皆さんの協働でやってきて、回復してきたというのがあるので、地元の方たちと行政がやるべきことを、しっかりそこはそれぞれがやるべきことというのを、みんなで共通認識を持って、それぞれ取り組むということをやっつけていかなくてはいけないと思っています。

市長：須賀さんから、緑化フェアも一過性のものにしてはならないと、私たちも本当にそう思っています。

P T A協議会も実行委員に入っておりますので、まさにみんなで一緒に作っていくという取組になっています。ポスターもようやく刷り上がって、これから貼り出していきますので、皆さんの意識をみんなで高めていければと思っています。

この前、中原区での車座集会で、自治会・町内会で、花を植えるというのをプランターでやっていっているんですという話で、今、自分の町会だと、80軒ぐらいにご協力いただいて、パンジーみたいなのをみんなで道路に設置しようという取組をやっていて、それをどんどん増やしていくみたいな話で、なるほど、そんなお花の、町会をお花で盛り上げる活動ってあるんですねとびっくりして、そういう取組もあるんだと。地域によっていろんなやり方があるというのが、意外とノウハウがシェアされると、広がりをもっと出てくると思います。

今、清掃活動の話がかなり出ましたけれども、大事なのは石井さんがおっしゃったとおり、利用する人も、管理して運営している人もと、この境というふうなのをなるべく意識も一緒に合わせていって、一緒に取り組むということが大事ですね。

そのために、じゃあどういう形がいいのかというと、先ほど中学生の話がありましたけれども、自分が労働力として関わるというふうな形ではなく、一緒に遊ぶから、楽しいことをやるから、管理のほうにも一緒に加わっていくという形が望ましい姿ですね。

ですから、そういった要素をいかに入れられるかと。入れていきながら、同じプラットフォームで、企画から話し合っていけるかということが大事かと思っています。その中では、小川さんのような企業として参加していただいて、さっき小川会長から、すばらしかったですね。自分のところには虫の詳しい人がいるよと。そういうふうな形で貢献していただけるというのも、すごく大切な話だと思いますし、そういうことを具体的に落とし込めるようなプラットフォームというか、会議体みたいなのができると、より本格的に中学生も入っていけるということになるのではないかと思いますけれども、いかがでしょう。このことについてコメントいただける方はいらっしゃいますか。

岩倉さん：今、コンソーシアムでは、マルシェが中心になってきちゃって、マルシェをやっているコンソーシアムみたいになっちゃっているんですけども、実は、新百合全体をということで、本当に最初の段階から、公園も含めて全体を居場所にしていこうと。そのために、コンソーシアムとして何ができるの

かということはずっと考えてきました。

それで、ブレイクのときに、事務局長と話をして、ひだまり大作戦って非常にいいよねと。ひだまり大作戦という公園のこういうことをやったらいいんじゃないのかという1つのテーマがあったんですけど、これはいいよねと。これをコンソーシアムですぐ取り組みながら、今ちょうど、次の3月のマルシェのときには、檜山公園とずっと連動した形で、広いエリアの新百合を楽しんでもらえるような、そういう空間づくりをするんですけども、檜山公園だけじゃなくて、いろいろなところへ行きながら、何か取り組めたら、そういうのをコンソーシアムとして支えられたらいいなと。今、そういうふうに進みそうです。

市長：ありがとうございます。

中学生の提案でも、移動販売ってありましたよね。マルシェが移動販売かどうか分かりませんが、マルシェの公園版みたいな。

岩倉さん：いろいろな公園に出張していったら面白いかと。それに一緒に関わっていただいたり、これはどうやったら面白いねといういろいろなアイデア出しをしていただいたりして、それをうまく形づくるのは、我々がお手伝いをしてというような、そんなことが役回りとしてできたら面白いかと。

市長：そうですね。今日は麻生中学校から生徒さんが来ていただいていますけど、実は、かわさき若者会議とか、いろいろな若い人たちって、結構集まっているいろいろなプロジェクトをやっているんですね。隣の多摩区では、区のソーシャルデザインセンターの運営はほぼ学生さんたちがやっていて、そこで多摩川の利活用をやろうということで、まさにフェスみたいなのを大学生を中心にやっています。大学生はどこから来ているのという、実は都内からとか、かなり広範囲から集まってきて、面白いことをやろうというところに人は集まってきて、そして自治会・町内会の皆さんといろいろな議論をしながら、成り立っているということなので、今日また、これをきっかけに、ぜひそういう若者の人たちの意見も聞き、企画もし、そして行動も一緒にしていくという、そういったきっかけに、具体で、例えば今、岩倉さんがおっしゃっていただいたように、こういう公園で、少し出張でもやってみようかというところに若者が入ってくる。一緒に公園清掃もやろうかというふうな話になっていくと、何となくいい循環ができていくのではないかと考えておりますが、今までのところ、区長、いかがでしょうか。

三瓶区長：本日は、ありがとうございます。公園を管理している方たちだったり、地域の方たち、さらには中学生の方たちのお話って、それぞれに、私のところにいろいろお話を聞いたりする機会があるんですね。ただ、それをつなぐということ、行政として、なかなかできていなかったと思っています。

今日、こういう形で皆さんときっかけづくりができたのではないかと考えていて、ぜひ、これを1つでもいいので、実現できるような形に進められたらと思っています。

市長：ありがとうございます。

第1回の地域デザイン会議の発表のところで、早稲田大学の矢口先生のキーワード、メモったんですけど、やはり一番最初、主役は人、住民であると。そして、奉仕し、奉仕される関係と。いいキーワードですよ。それから、まずやってみるという、議論もいけれどもやってみようというところから、いろいろな人たちを巻き込んで、やってみようじゃないかと。失敗したら、次もまたこういう工夫ができるよねという、そういう前向きなチャレンジをするということだと思います。そして、何よりも楽しくということが、持続可能なキーなのかと思いました。

ですから、誰にとっても、もともと公園って、私は公園の歴史にそれほど詳しいわけではないんですけど、イギリスの王族が持っていた領地というふうな、狩り場だとか、あるいは庭園みたいなのを一般の方たちにオープンにしていたというような話があって、それで市民の皆さんが憩ったり、あるいは遊んだりというふうな、そこから始まって、今世界中に公園が出てきたのですけれども。

1つ公園といっても、いろいろな地域のいろいろな課題が内包されていると思います。老朽化の話だったり、あるいは担い手の話だったり、あるいは、活用するのにちょっとハードルが高いとかということをもみんなで知恵を出し合って、行政もその中で、このルールって本当にそうなのだろうかとみんなで考えていく。あくまでも、最初の話のように、主役は人であり、住民であるという考えの下に、これから公園を利活用していく、そんな機会に今日はなればありがたいと思っています。

今日は、3人の中学生がすばらしい気づきと、そして可能性を示してくれたと思います。ぜひ、拍手を送っていただければと思います。

(拍手)

市長：ありがとうございます。

今日は、本当に参加いただいた皆さんと、それから傍聴にも多くの皆さんが来ていただいたことに、改めて感謝を申し上げたいと思います。

それでは、今日はこの辺りで閉じたいと思います。ありがとうございます。

(拍手)

司会：出席者の皆さん、福田市長、三瓶区長、ありがとうございます。

再度、ご出席の皆さんに感謝の意を表するということで、拍手をしたいと思います。皆さん、ありがとうございました。

それでは、本日ご議論いただいた課題ですが、私ども、地域デザイン会議を3回重ねて、本日の車座集会ということで、また令和5年度、6年度の都市緑化フェアに向けて、具体の活動実践につなげていければと考えております。

これで、第56回車座集会を終了させていただきます。ありがとうございました。